

健康寿命

岡山の短さの原因解明を

介護を受けたり病気で寝たきりになったりせず、自立して健康に生活できる期間を示す「健康寿命」に注目が集まっている。政府は「健康医療戦略」を閣議決定し、健康寿命を2020年までに1歳以上延ばす目標を掲げた。

健康寿命は、国民生活基礎調査を基に厚生労働省が2年前、10年時点の値を初めて算出した。男性70・42歳、女性73・62歳だ。元気で長生きするのは誰しも願うところ。

寿命の長さだけでなく、生活の質も重視した健康寿命を延ばすことは歓迎できよう。

岡山は全国でも長寿県であり、10年時点の平均寿命は男

性79・77歳（全国15位）女性86・93歳（同8位）と上位に位置する。ところが、健康寿命は男性69・66歳（同41位）女性73・48歳（同29位）と短い。平均寿命との差はそれぞれ10年余り、13年余りと大きい。体の問題などで生活に支障がある期間が長いわけで、好ましくない状況だ。

厚生省の研究班が先にまとめた全国20大都市の10年時点の健康寿命でも、岡山市は男性18位、女性15位と低迷していることが判明した。改善へ向けた対策が急がれよう。

広島、香川県も似た状況にある。健康寿命は広島が男性70・22歳（同30位）女性72・

49歳（同46位）、香川は男性69・86歳（同38位）女性72・76歳（同42位）と下位だ。瀬戸内地域は、気候温暖で豊かな食に恵まれ、医療も発達している。寿命が長いのに

社説

健康寿命はなぜ短いのか。理由について岡山県や岡山市は「分からない」としている。

健康寿命に関しては運動、食事などの生活習慣のほか、仕事、ボランティアといった

社会参加、健診の受診率など多岐にわたる要素がからむ。医療機関が充実していることで診察や治療を受けやすく、健康でないと意識するといった側面も否めない。つかみどころが難しいのは確かだ。

しかし、対策を漫然と行っているだけでは成果が上がりにくい。各種データを検討することで、岡山県の国民健康保険加入者の特定健診（メタボ健診）受診率が低いといった弱点なども見えてくる。研究者らも交えて原因の解明を進めるべきだろう。

健康寿命改善への取り組みは始まっている。岡山県は13年度から健康寿命延伸プロジ

ェクト事業をスタートさせた。市町村や団体を対象にモデル事業を募り、禁煙推進などの取り組みも行っている。

岡山県鏡野町は県内初の健康づくり条例を制定して生活習慣病の予防などを進め、井原市は「健康寿命日本一」を目指す健康増進計画を作った。総社市は特定健診の受診を促すため、一定条件を満たした世帯に1万円を支給する制度を設けている。

ただ、これらの施策をばらばらに行うのでは効果に限界がある。成果や情報を共有し、相互に生かすことが必要だ。県などを中心にした仕組みづくりも求められよう。

2014.8.22